

近年のフクラギ漁況について

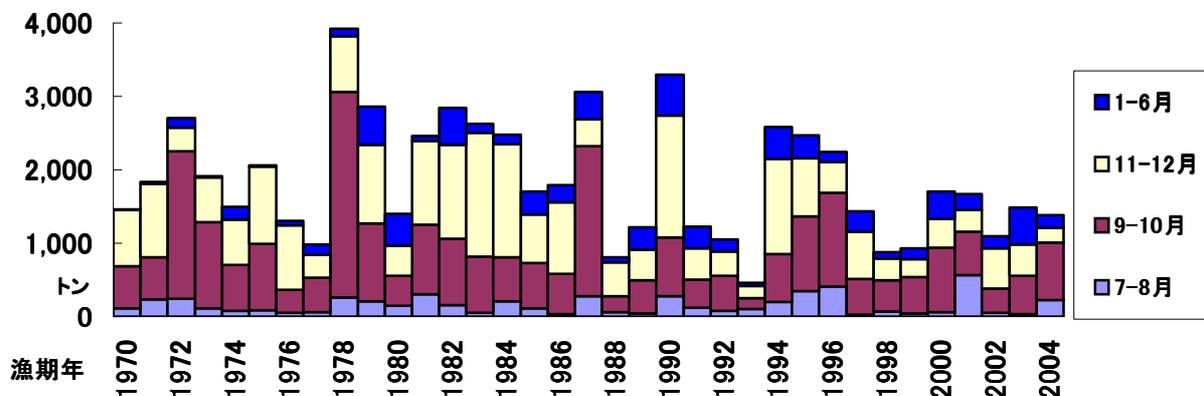
富山県水産試験場
主任研究員 井野慎吾

1 背景・ねらい

ブリの幼魚（0歳魚）であるフクラギは1970～1980年代、9～12月にかけて多獲され年間で平均2,000トン以上漁獲されたが、近年は11～12月の漁獲量が少ない傾向があり、漁獲量は1,000～1,500トンで推移している。このような現象の要因について、漁獲量や標識放流の結果等から検討し報告する。

2 成果の概要

(1) 富山県では、ブリの0歳魚（以下、フクラギと称する）が7月から翌年6月までの漁期集計で1970～1980年代に平均2,105トン漁獲されたが、1990年以降の平均は1,594トンであり、近年は1970～1980年と比較して漁獲量が低迷している。月別漁獲量をみると、近年は11～12月の漁獲量が少ない傾向がみられる。これは何故か？



(富山県におけるフクラギの漁期別漁獲量)

- (2) 1970～1980年代に行われた標識放流の結果から、当時は日本海北部のフクラギが冬季に能登半島以西へ南下していた。2003年12月に岩瀬沖で放流したフクラギは、能登半島以西で再捕されなかった。近年、秋田県や山形県では付近の海域で越冬したとみられるフクラギが春に漁獲されるようになった。
- (3) 以上から考えて、1970～1980年代は冬季にフクラギが日本海北部から富山湾を経て能登半島以西へ南下したが、近年は日本海北部でも越冬している可能性が高い。よって、近年はフクラギが日本海北部でも越冬するようになり、富山湾へ11～12月に来遊するフクラギの量が1970～1980年代よりも少なくなった可能性がある。
- (4) 日本海北部でフクラギが越冬するようになった要因の一つとして、1980年代後半から最低水温期（3～4月）の水温が1970～1980年代と比較して高めに推移している事が挙げられる。最低水温期における日本海中部から北部にかけての海域の50m層水温図をみると、1990年代にフクラギの生活限界である9℃を上回る水温の海域が青森県付近にまで拡大した。つまり越冬可能な海域が拡大したとみることができる。

3 成果の活用面・留意点

近年、フクラギ漁獲量が低迷している要因が抽出され、漁況を予測しながら、計画的な操業および出荷を行うための判断材料が得られた。

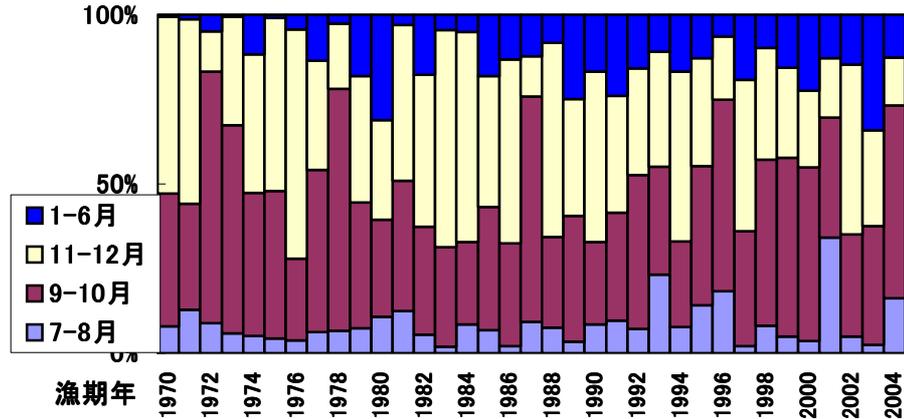
4 問い合わせ先

水産試験場漁業資源課 担当：主任研究員 井野慎吾 TEL076-475-0036

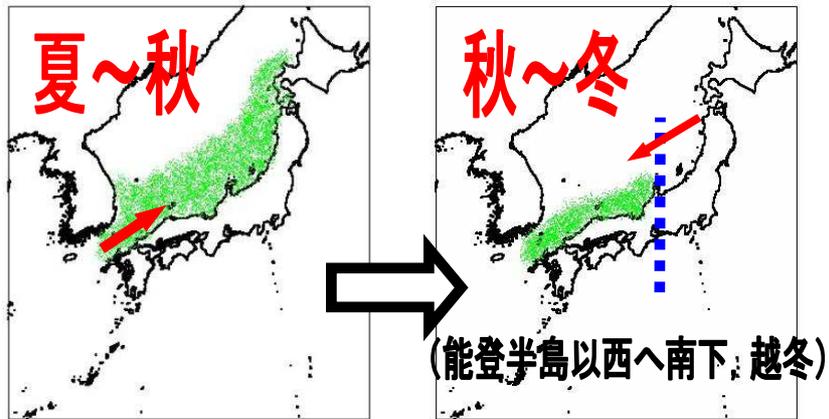
(参考) 具体的データなど

(1) フクラギ漁獲量の月別割合

1970～1980年代は11～12月の漁獲量が平均42%を占めたが、1990年以降の平均は33%である。



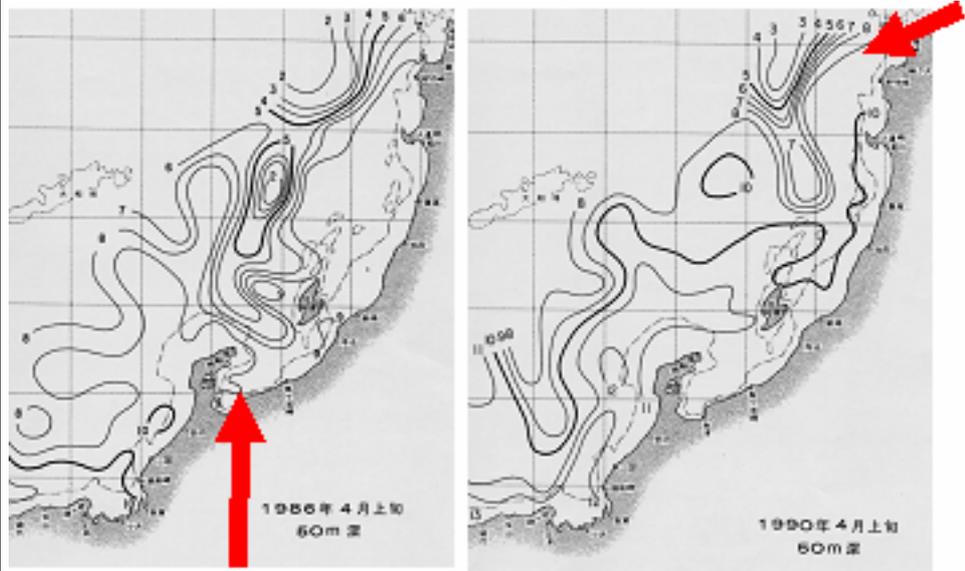
(2) 1970～1980年代のフクラギの分布・移動の模式図 (渡辺, 1979; 山川, 1989; 村山, 1991を基に作図) 日本海北部のフクラギが冬季に能登半島以西まで南下していた。



(3) 日本海中部～北部における最低水温期(4月)の水温分布

左: 1986年4月 水温9℃以上の海域が能登半島付近よりも西方に分布

右: 1990年4月 水温9℃以上の海域が青森県以南に分布



1986年4月 1990年4月 (図中の矢印は水温9℃のラインを指す)

日本海漁場海況速報(日本海区水産研究所)による